

姫路市商工会管内地域経済動向調査報告

(2024年3月値・要約版)

本調査は、姫路市商工会管内が、兵庫県及び全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しており、姫路市商工会HPで公開している。

経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的に広く管内事業者等に周知するとともに、経営指導員等が巡回指導を行う際の参考資料とする。

※本調査報告内に表記される「姫路市」とは原則「姫路市商工会管内(夢前町、安富町、香寺町、家島町)」を指す

(出展:小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、姫路市商工会景況調査、他)

<用語説明> DI値 = 「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す

例. 調査事業所数 10、「好転」事業所数 2、「変化なし」事業者数 4、「悪化」事業所数 4 の場合

好転:20%(2/10)、悪化(4/10):-40% 差引:-20% がDI値となる

産業全体の景気動向の推移

<概要>

全産業のDIはいずれも悪化した。一方、主要3DIを新型コロナの第8波が低下しつつあった前年同期と比較すると、売上額だけは1.1ポイント下回っているものの、採算は9.8ポイント、資金繰りが2.5ポイントと、いずれも上回って推移していた。当期の業況を製造業、建設業、小売業、サービス業の4分野で見ても、今回は売上額、採算、資金繰りの主要3DI全てで前回から悪化する結果となった。

経営上の問題点としては、引き続きコスト面を1番の問題としてあげる経営者が多数を占める。また、「需要の停滞」あるいは「従業員の確保難」を指摘する経営者も増加しており、コスト面に加え、いつもの困難に直面する経営者が増えていることがうかがえる。

今回の調査結果では、主要3DI全てが悪化し、中小企業の景況感は依然として弱い状態にあることが示された。最新の日銀短観(2024年3月)の調査結果では、中小企業の業況判断DIは、コストの増加や人手不足など複数の要因が重なり、「最近」については製造業、非製造業とも悪化した。「先行き」に関しても、とりわけ非製造業では悪化幅が大きく慎重な見通しが続いており、今後の中小企業の景況を支えるための継続的な対策・支援が求められている。

<地域別>

【全国】

2024年1-3月期の全産業の業況判断DIは、▲5.7(前月差2.0pt増)となり、前月から改善した。

製造業の業況判断DIは、▲7.9(前月差0.1pt増)となり、前月から改善した。

建設業の業況判断DIは、▲4.3(前月差2.0pt増)となり、前月から改善した。

商業の業況判断DIは、▲12.5(前月差1.2pt増)となり、前月から改善した。

サービス業の業況判断DIは、2.1(前月差4.9pt増)となり、前月から改善した。

売上額DIを中心に全産業DIは改善した。売上額が改善する中で採算性の改善は全事業者において目下の課題である。価格転嫁できていない事業者も多く、物価高騰における経営改善に苦慮している。

【兵庫県】

企業の業況判断は、足もと悪化し、先行きは慎重な見方となっている。

個人消費は、回復に向けた動きが広がっている。

輸出は、増勢が鈍化している。設備投資は、増加計画にある。

生産は、弱めの動きがみられる。

有効求人倍率は、前月を上回った。雇用者所得は、全体として改善の動きがみられる。

倒産件数は、前年を上回った。

【姫路市商工会管内】

姫路市の業況は、▲24.0 となり、全国 DI(▲5.7)、兵庫県 DI(▲19.9)と比較すると、最も低い。

売上高は、▲22.0 であり、全国DI(11.8)、兵庫県DI(▲8.5)と比較すると最も低い。

採算状況は、▲44.0 で、全国DI(▲11.8)・兵庫県DI(▲27.4)と比較すると、最も低い。

資金繰りは、▲30.0 で全国 DI(▲9.9)・兵庫県 DI(▲15.0)と比較すると、最も低い。

姫路市商工会独自調査における代表的なコメントを以下に記す。

(サービス業)

- ・6月以降、空調利用等で電気代が高くなることが心配(美容室)
- ・コロナ禍が集客のピークで現在は減少傾向。1年前に価格改定できている(ゴルフ関係)

(商業 小売、卸売等)

- ・円安、原油高の影響で仕入単価高騰の心配があります(燃料小売)
- ・従来なら3月に売れていたバイク、自転車が売れていない。物価高の影響だと感じる(自転車販売)
- ・採算は年々悪くなっている。次月からは5年ぶりに値上げに踏み切る(飲食店)
- ・利益率の良いモーニングに少しお客さんが増えた印象だが、コロナ以前と比較するとまだまだ(飲食店)
- ・70%程が PayPay やカード支払いのため、現金化までに時間を要し資金繰りが苦しい(衣料品販売)

(建設業)

- ・マイナス金利解除に伴う影響は未だ無い。ただし、新築着工件数は全体的に減少傾向である。
代わりにリノベーションへの需要が高まってきている(建築業)

(製造業)

- ・加工賃が数十年上がることも下がることもないため、売上も大きくは変わらない(金属加工業)
- ・元請け企業からの受注が60%程度に落ち込み、苦しい状況となっている(鉄工業)
- ・建築材専門の卸業者への売上が悪くなってきている。(木工業)

<業種別業況>

全国的な産業全体の景況は、売上額を中心に全 DI が上昇した。年度末需要の高まりや、新生活に向けた人流の活発化から、全業種で売上額 DI がプラス値へ上昇した。

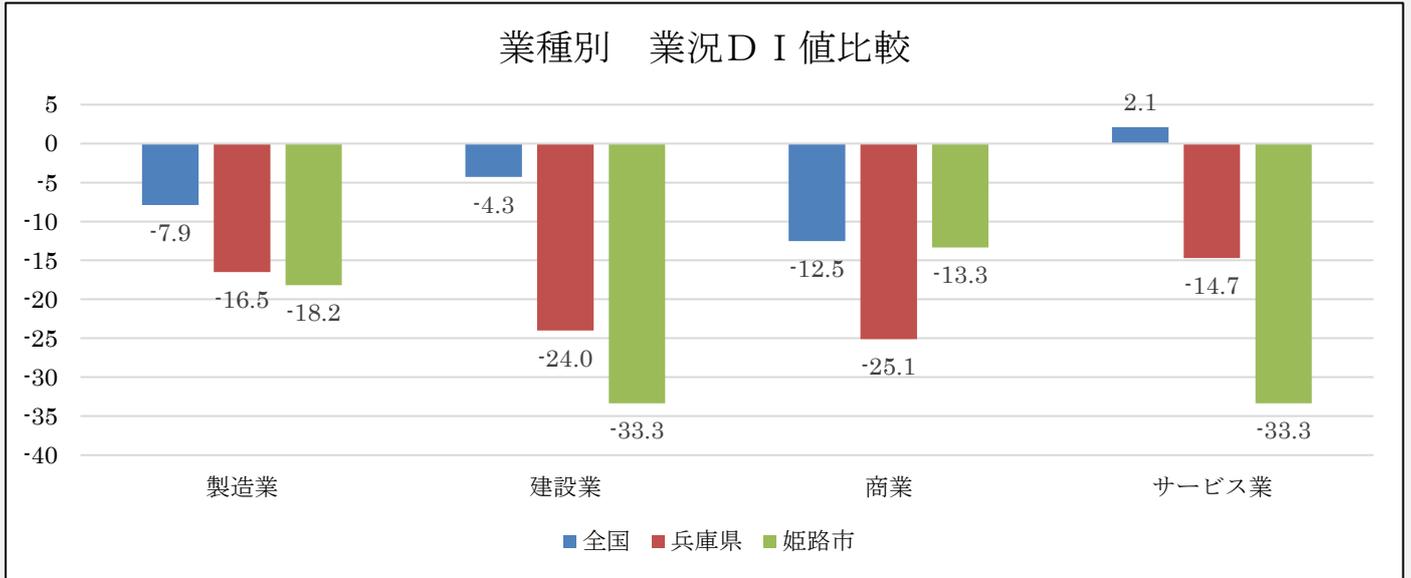
一方、売上額が改善する中で、採算性の改善は全事業者において目下の課題である。しかし、顧客離れを恐れて、原材料エネルギーや物流コスト等の値上げ分すら価格転嫁できていない事業者も多く、物価高騰における経営改善に苦慮している。

<総括コメント>

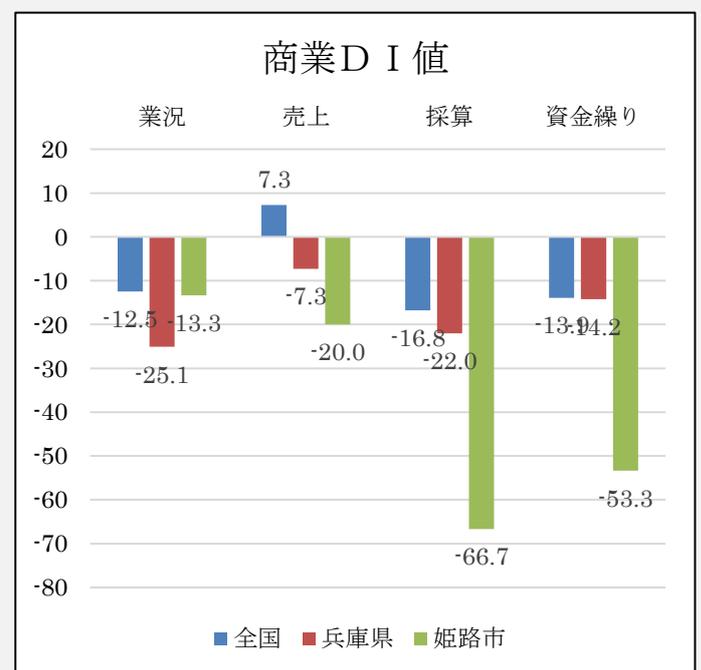
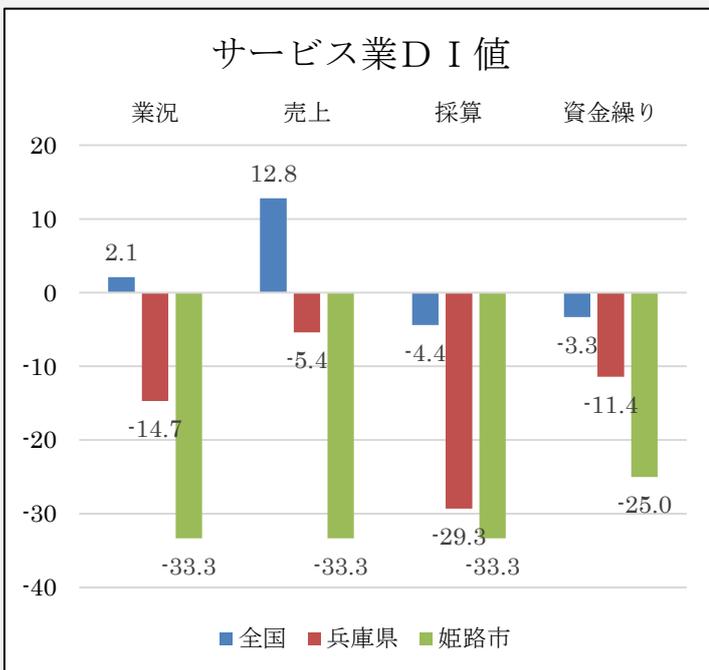
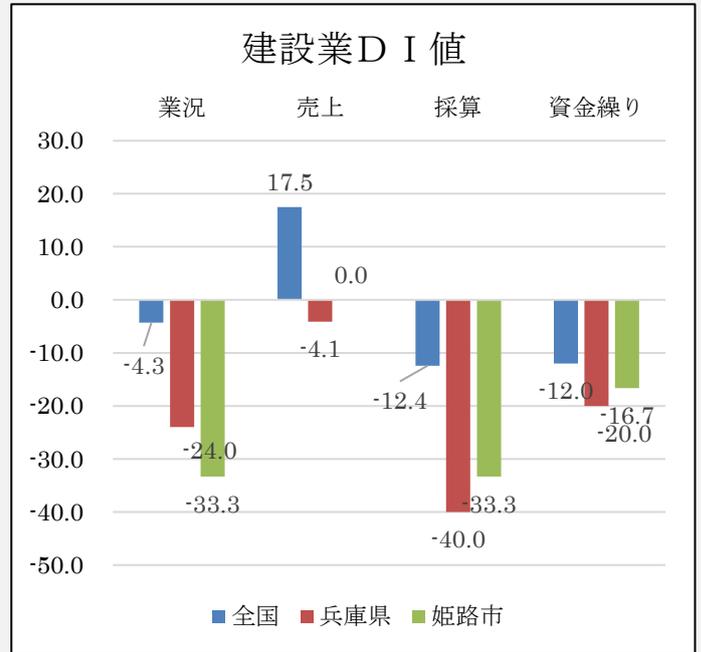
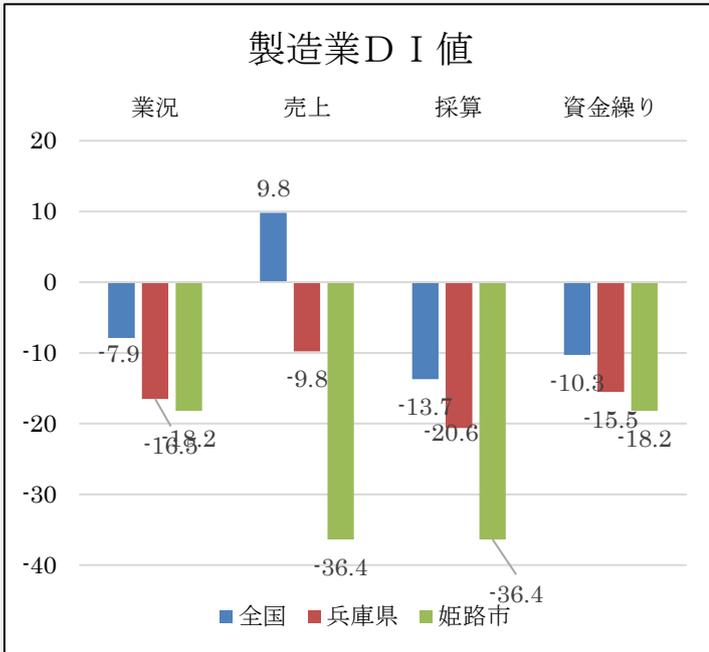
国内景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している。

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引き締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

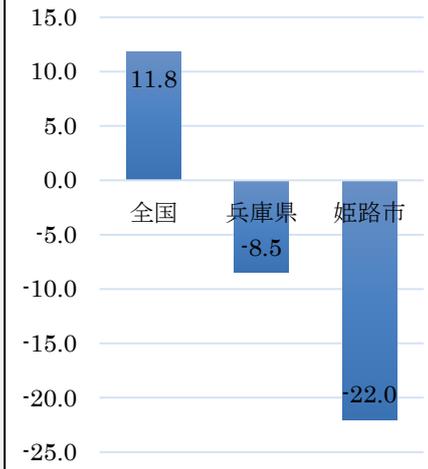
業種別 DI 比較グラフ



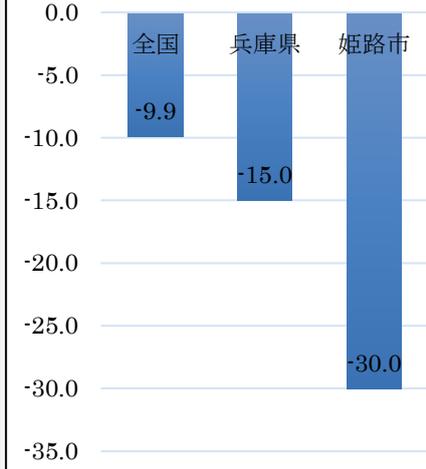
全業種 DI 比較



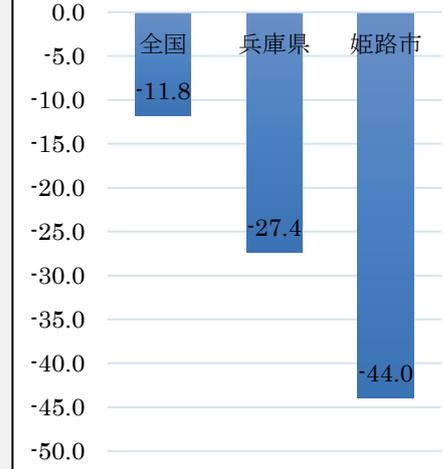
売上D I 値



資金繰りD I 値



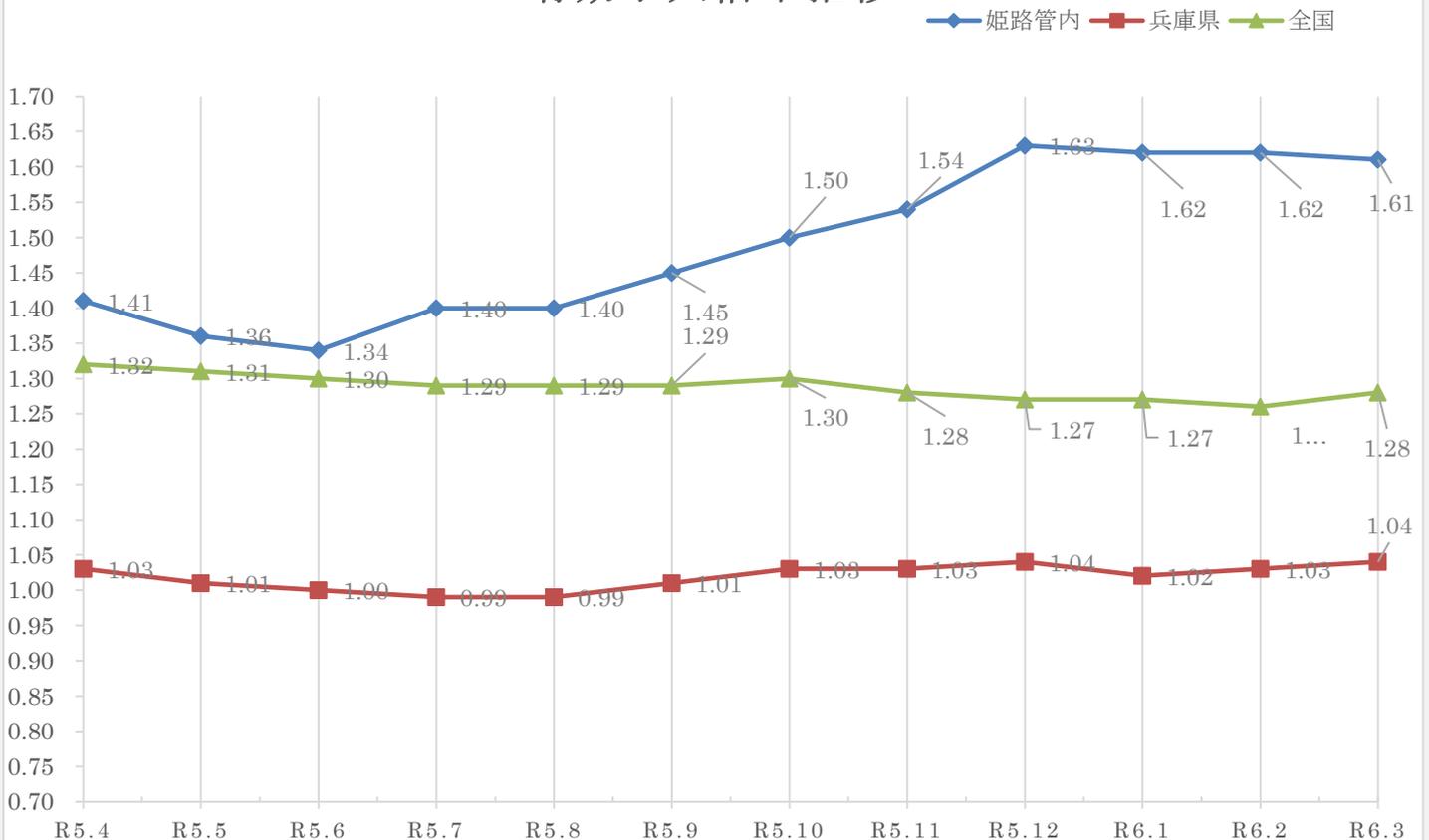
採算D I 値



管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数 例. 求人案件が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍
 令和 6 年 3 月期の有効求人倍率は、全国 1.28 倍、兵庫県 1.04 倍、姫路管内 1.61 倍となっている。
 令和 5 年 4 月から 1 年間の推移を見ると、全国と兵庫県においてはほぼ横ばい傾向である。
 姫路市は令和 5 年 7 月から増加傾向であり、全国・兵庫県と比較しても高い求人倍率を維持している。
 兵庫労働局は、有効求人倍率の数値が改善した一方で、有効求人数が減少したことに着目。「持ち直しの動きにやや弱さが見られる」との見方を 14 カ月連続で示した。「物価上昇等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」との見方も維持した。

有効求人倍率推移



▲全国・兵庫県・姫路市(ハローワーク姫路管内)直近 1 年間の有効求人倍率推移比較